日本及び朝鮮産蝶類覚書

村　山　修　一

Remarks on some butterflies from Japan and Korea, with descriptions of 2 races, 1 form, 4 aberrant forms.

By Shu-iti Murayama

本稿を草するにあたり，多大の御援助を頂いた韓国の朴世旭氏，日本の吉阪道雄，山内光両氏に心から御礼申上げる．

Papilio maackii raddei ab. *paki* **nov.** ミヤマカラスアゲハ（新異常型）（fig. 1 & 2）

Holotype; 1♂光陵（中部朝鮮）26, IV. 1959.

後翅表面，中央の青緑帯が著しく巾広くなり，外縁各室の弦月形の青緑紋もまた拡大して第1，第6，第7室は完全に融合し，第5室も殆んど完全に近く，第2，3，4各室はわづかに青緑鱗の疎布する小部分をのこすのみである．肛角の赤紋，各弦月紋外側の赤紋も拡大し巾が広い．このため後翅は全く別種の如き観あり，その美しさはホッポアゲハをしのぐものである．裏面中央の黄色帯拡大し巾広く，外縁の弦月紋も拡大して紫色部赤色部ともに巾広く，第6，7両室では紫色部と黄色帯は融合している．新名は朴氏の御功績に奉献したものである．春型の異常型である．

Apatura ilia substituta Butler コムラサキ

東洋における *Apatura ilia* ならびにその近縁種の分類は Le Moult の大著にかかわらず，なお問題は多いが，ここにとりあげたのは，日本のコムラサキと共通といわれる *substituta* についてである．これは北シナから Butler が記載したが，日本のものと区別される点がないと従来考えられ，江崎博士（昆虫21(1 & 2), 1954）も同様のべられた．しかしいま私は手許の満州及び朝鮮中部の *substituta*（fig. 3 & 4）と考えられる標本数十頭を日本（fig. 5 & 6）のものと比較し，よく眺めてみると，確に区別点があるのである．これは少数の材料では余りはっきりしないが，多数をならべてみると気がつくのである．その区別点として，(1)総体に満鮮のものは小形である，その前翅長を手許のものについて平均値を出すと，満鮮産♂32mm，♀37mm，日本産♂34mm，♀38mm．(2)表面前翅第1室中央及び第2室の基部に近い橙色紋は満鮮のものは大きく，且日本のではこの2個

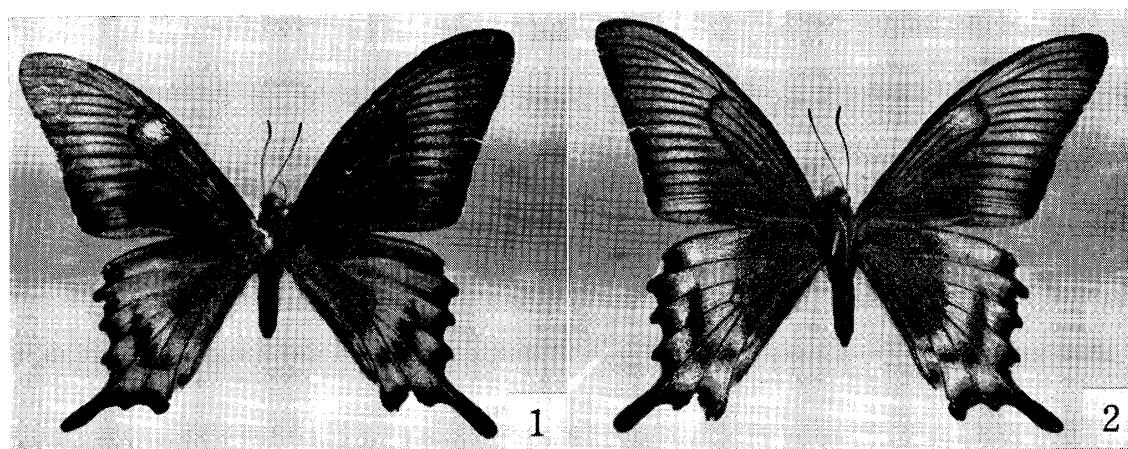



Fig. 1 *Papilio maackii raddei* ab. *paki* nov. ♂. Length of forewing (LF) 45mm. Kwangnung (M-Korea)　Fig. 2 Do. Underside.

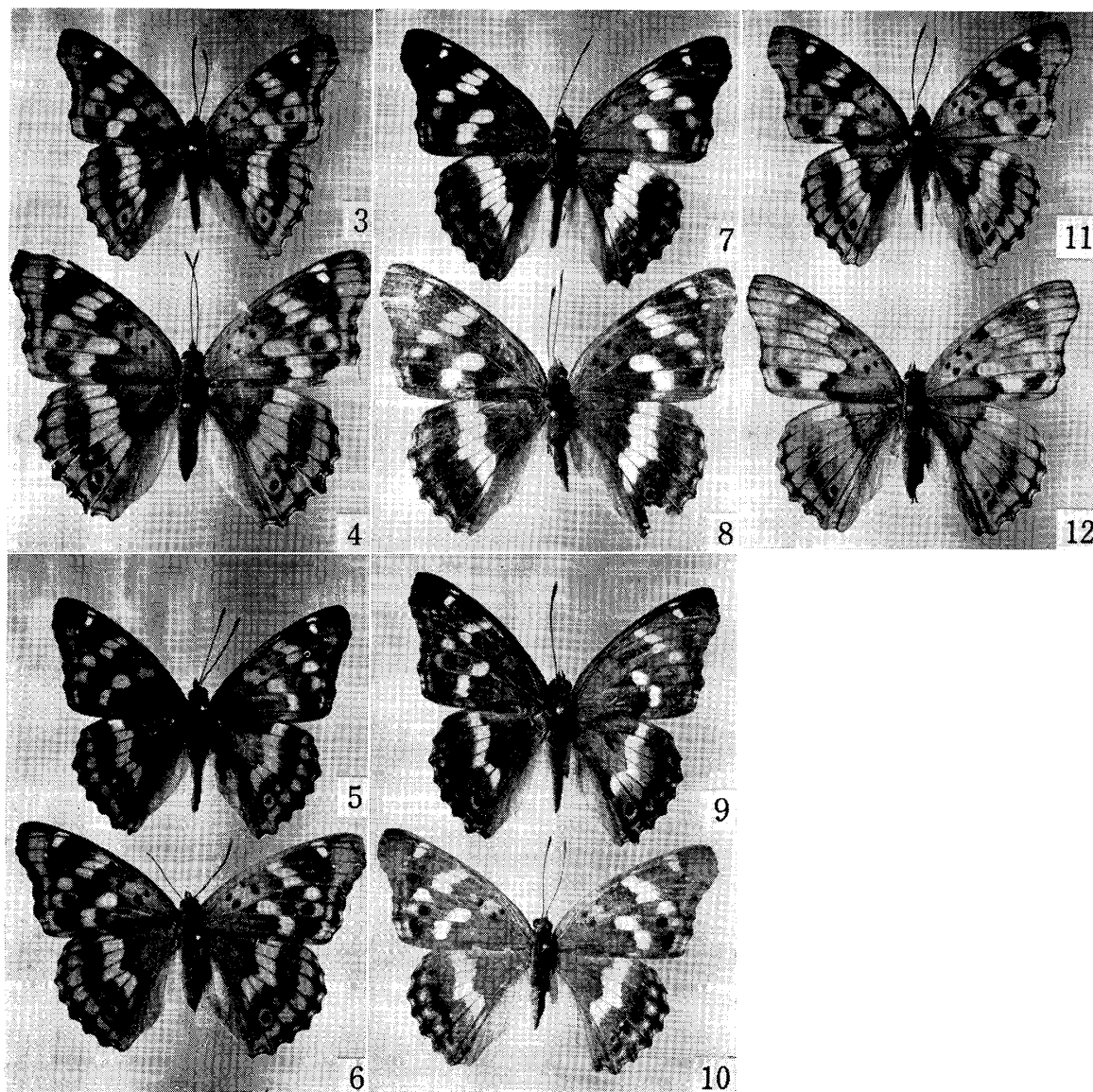



Fig. 3 *Apatura ilia substituta* (sensu MURAYAMA) ♂ LF:30mm. Kwangnung (M-Korea)
Fig. 4 Do ♀ LF: 40mm. Do.
Fig. 5 *Apatura ilia mikuni* BUTLER (sensu MUR.) ♂ LF:33mm. Sigakogen (Japan)
Fig. 6 Do ♀ LF:37mm. Mt. Daisen (Japan)
Fig. 7 *Apatura ilia substituta* (nigrescent form) ♂ LF:34mm Kwangnung (M-Korea)
Fig. 8 Do. ♀ LF: 36mm Do.
Fig. 9 *Apatura ilia mikuni* (sensu MUR.) (nigrescent form.) ♂ LF: 30mm Shizuoka (Japan)
Fig. 10 Do. ♀ LF: 34mm Do.
Fig. 11 *Apatura ilia substituta.* f. *kwangnunga* nov. ♂ LF: 30mm Kwangnung (M-Korea)
Fig. 12 Do. ♀ LF: 35mm Do.

の紋が第1室のは外側へずれ，第2室のは内側へよっているのが普通だが，満鮮のはずれが少く，中には殆んど両紋が第 1b 脈のところでくっついていて一つの帯状紋になっているような個体がある．(3)表面後翅中央の橙色帯の間の紫黒色の部分は巾が広くなっている．そうしてその部分の巾が極度に狭められ，且淡色化してしまった

のが次に記す新型である．以上の区別点は個体により多少程度の差はあるが，全体として甚だ明瞭な相違点である．正常型にこの区別が認められる以上黒化型にも何等かのパラレルな現象があらわれてくるのは自然で，次にクロコムラサキについて朝鮮（満洲産は手許になし（fig.7 & 8）と日本（九州及び静岡産）(fig.9 & 10)のとを比較すると前翅長の方は大差なかったが，(1)表面前翅第1及第2室の白紋は明かに朝鮮のが大きく，且並び方にずれも少い．(2)表面後翅中央の白帯も明かに太い．以上を要約すると，正常型，黒化型ともに朝鮮のが日本より斑紋は発達する．つまり日本の方が黒化しているといえそうである．従って将来の研究で *substituta* の名が生きるかどうかは別として，厳密には *substituta* は満鮮のものにあてはめても，日本のものには，はまらず，別の亜種名を使用するのが望ましいのである．私案としてはさしあたり *ilia mikuni* として日本の亜種を代表せしめてはどうかと思うのである．

Apatura ilia substituta f. *kwangnunga* **nov.** コムラサキ（新型）(fig.11 & 12)

これは森氏等著「原色朝鮮の蝶類」p.33に *ilia* subsp. コウライコムラサキとせられたもので，表面前翅外縁の橙色部巾広くなり，後翅中央橙色帯外側に拡大して亜外縁の橙色帯と境する紫黒色帯は狭く且淡色化し，♀では殆んどきえて，僅か第2，3，4，5各室に小さな黒斑をのこすのみ，♂でも各室に弦月紋の黒斑となってのこっている．但し第2室の眼状黒点は明瞭．これは *Apatura here* に似ているようだが，橙色帯の巾の広い

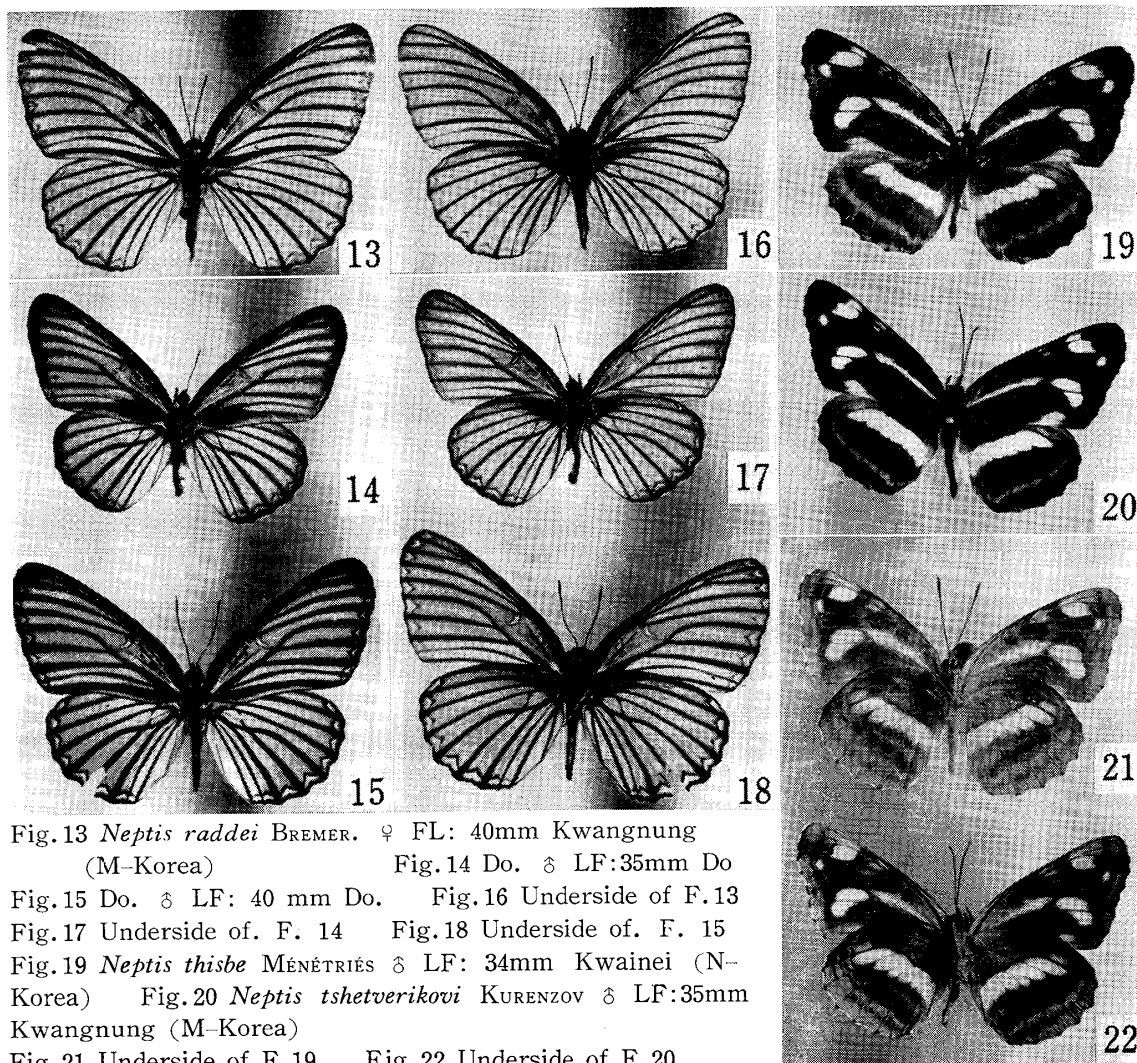



Fig. 13 *Neptis raddei* Bremer. ♀ FL: 40mm Kwangnung (M-Korea)　Fig. 14 Do. ♂ LF: 35mm Do
Fig. 15 Do. ♂ LF: 40 mm Do.　Fig. 16 Underside of F. 13
Fig. 17 Underside of. F. 14　Fig. 18 Underside of. F. 15
Fig. 19 *Neptis thisbe* Ménétriés ♂ LF: 34mm Kwainei (N-Korea)　Fig. 20 *Neptis tshetverikovi* Kurenzov ♂ LF: 35mm Kwangnung (M-Korea)
Fig. 21 Underside of F. 19　Fig. 22 Underside of F. 20

こと，決して帯の内側が白化しないこと，翅全体に橙色味の強いことで明かに区別される．

Holotype：1♂，2.VIII. 1959, Allotype：1♀，30.VII. 1959, Paratopotypes：3♀♀，7–24, VIII. 1961, 光陵（中部朝鮮）

Neptis raddei Bremer スジグロミスジ（fig.13～18）

本種は朝鮮からは最北部白頭山に近い国境近くで採れたもの，平安北道狼林山等の採品がしられていたのみであったが，今回次の3頭が光陵で採集され私の手許に保存している．

1♀，10.VI.1960, 1♂，30.V. 1960, 1♂，15.VI. 1959

私の手許の満洲産1♂や平山氏（原色蝶類図譜 pl.44,f.7）の図に比べるとかなり地色が白っぽく，♀に至っては非常に白くなって前後翅外縁の山形状紋も淡色である．♀裏面は一層白化し外縁の山形状紋は殆んど消えて痕迹をのこすだけである．♀は今迄記録されたものがあるかどうか知らない．

Neptis tshetverikovi Kurenzov ノムラキイロミスジ（新称）（fig.20 & 22）

本種の存在を初めて気づいたのは野村健一氏であるので同氏に因んだ和名をつけた．日本人で紹介したのは白水氏（Sieboldia, 1 (2)：157–158）で，そこにあげられた産地は北鮮の咸鏡道のみであったが，私の手許には光陵産の1♀4♂♂あり，中鮮及び光陵よりの新記録である．

1♀，17.VI. 1960,（前翅長38mm.），1♂，10.VI, 1960,（33mm.），1♂，6. VI. 1960,（33mm.），1♂，4. VI. 1959,（35mm.），1♂，5.VI.1960（34mm.）

出現期がかなり早いようである．裏面はオオキイロミスジ（fig.19 & 21）と大差ないが，翅表の白色帯は著しく淡黄色で少し飛び古すと白くなってしまう（オオキイロだと多少の黄味はのこる）．表面地色は濃褐色でオオキイロの地色より濃い．♂前翅の形はオオキイロより尖っている．以上が主な区別点となる．光陵では *thisbe* はいないで本種ばかりではないかと思う．金憲奎・申裕恒両氏(「光陵の蝶相」p.8）のあげられた *thisbe* は本種ではないかと思う．

Neptis speyeri Staudinger スバイヤミスジ

本種も従来北鮮のみしかしられていなかったので中鮮，光陵は新記録である．次の2頭が手許にある．

1♂，8.VI, 1960,（前翅長27mm.），1♀，22. VI. 1960,（27mm.）

Neptis rivularis peninsularum Murayama チョウセンフタスジチョウ

朝鮮のフタスジチョウについてはさきに石宙明氏（1934）が *koreana* の名で記載された．私は迂闊にもこれを忘れて本誌 Vol. XI. Pt. 2 に上記の名でまた記載した．しかし石氏の *koreana* はすでにチョウセンホシミスジ *Neptis pryeri coreana* Esaki et Nakahara, 1929 に先取されているので無効となるから上記の私の提出した新名が用いられるべきものと思う．

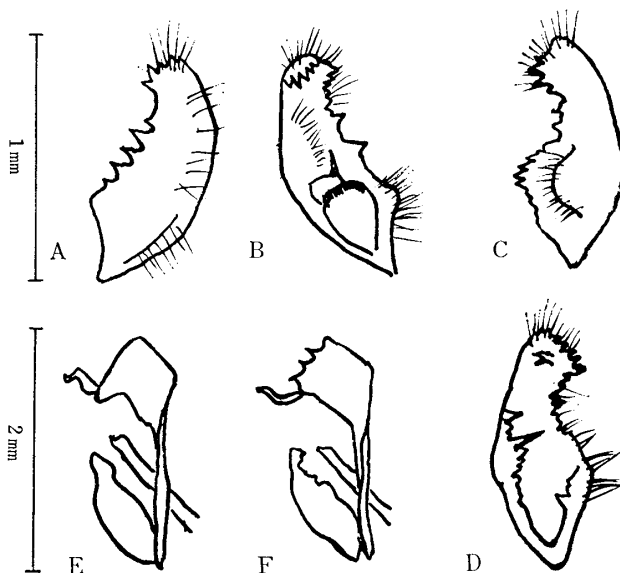



Fig. A. B. *Favonius ussuriensis* valvae
Fig. C. D. *F. latifasciatus* valvae
Fig. E. *F. ussuriensis* ♂ genitalia
Fig. F. *F. latifasciatus* ♂ genitalia

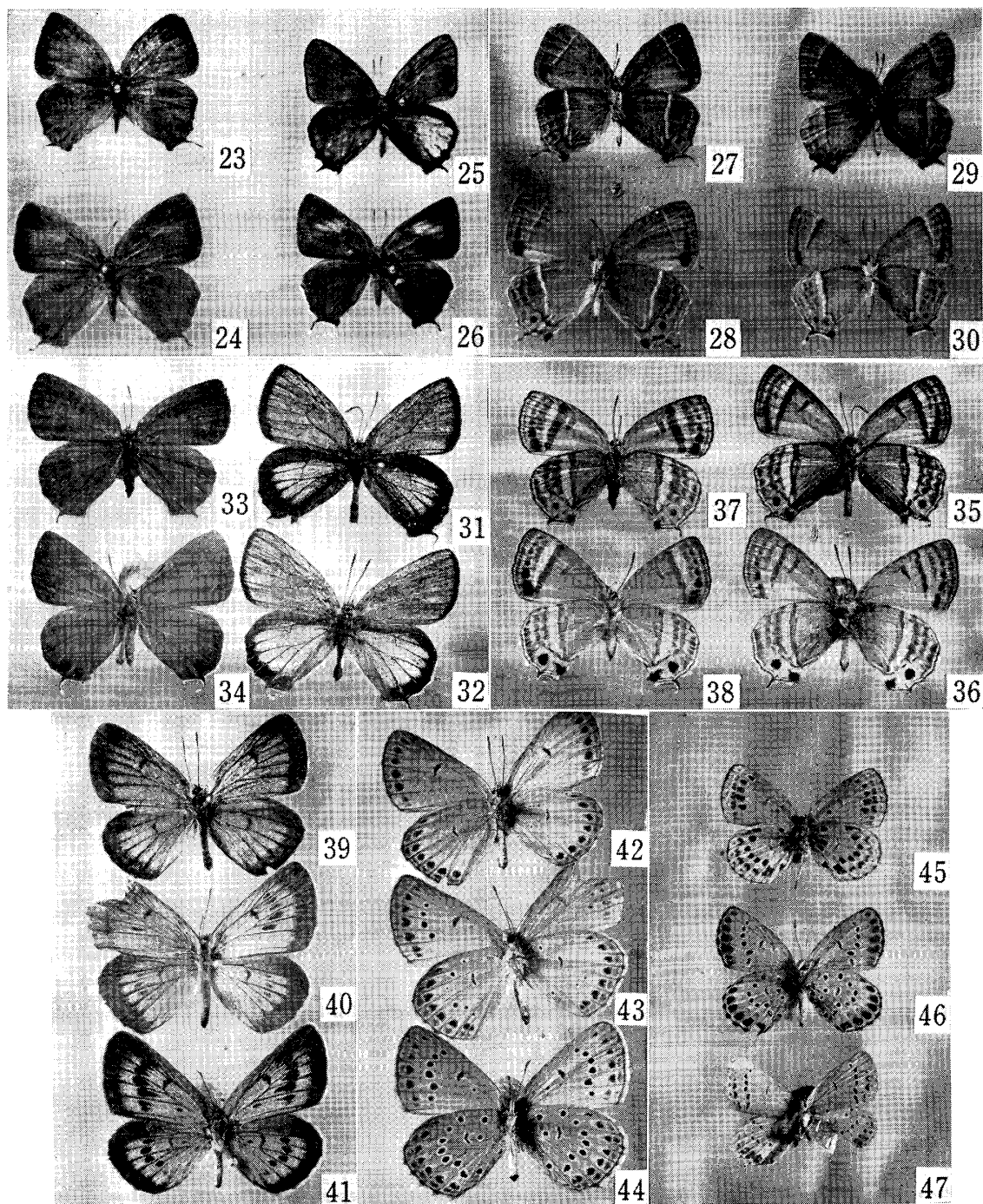



Fig. 23 *Favonius yuasai coreensis* subsp. nov. ♀ LF: 18mm. Kwangnung. (M-Korea) Fig. 24 *F. yuasai* Shirōzu. ♀ LF: 20mm. Ina, Nagano Pref. (Japan) Fig. 25. *F. ussuriensis* Murayama ♂ LF: 18mm. Kwangnung. (M-Korea) Fig. 26 Do. ♀ LF: 18mm. Do. Fig. 27 Underside of F. 23 Fig. 28 Underside of F. 24. Fig. 29 Underside of. F. 25. Fig. 30. Underside of F. 26 Fig. 31. *Quercusia fujisana latimarginata* subsp. nov. ♂ LF: 17mm. Mt. Homanzan, Kyushu (Japan) Fig. 32 *Q. fujisana fujisana* Matsumura ♂ LF: 17mm. Mt. Hira (Japan) Fig. 33 *Q. fujisana latimarginata* subsp. nov. ♀ LF: 15mm. Mt. Hikosan, Kyushu (Japan) Fig. 34 *Q. fujisana fujisana* Matsumura ♀ LF: 17mm Mt. Hira (Japan) Fig. 35 Underside of. F. 31 Fig. 36 Underside of F. 32

Fig.37 Underside of F.33 Fig.38 Underside of F.34 Fig.39 *Glaucopsyche teleius daisensis* ab. *yoshisakai* nov. ♂ LF:19mm. Mt.Daisen (Japan) Fig 40 Do ♀ LF:21mm Fig.41 *Glaucopsyche teleius daisensis* MATSUMURA ♂ LF:22mm. Fig.42 Underside of F.39 Fig.43 Underside of F.40 Fig.44 Underside of F.41. Fig.45 *Zizeeria maha argia* ab. *kanonis* MATSUMURA ♂ LF:13mm Hikone (Japan) Fig.46 *Lycaeides argus micrargus* ab. *chiyodaensis* nov. LF:13mm Yamagata (Japan) Fig.47 *Cupido argiades seitzi* ab *tukagutii* nov. LF:12mm Kobe (Japan)

Favonius yuasai coreensis **subsp. nov.** クロミドリシジミ（新亜種）（fig.23 & 27）

Type: 1♀, 18.VI.1961, 前翅長18mm. 光陵（中部朝鮮）

今回意外にもクロミドリシジミ数頭が採集され私の許に1♀が送られてきた．日本産（fig.24 &28）に比し，稍々小形，裏面地色暗色味加わり，後翅第2，4，5，6各室の外縁近く白鱗が著しい点で異るが，これで本種が日本特産でないことは明かとなった．

Favonius ussuriensis MURAYAMA ウスリーミドリシジミ（fig.25&29♂, 26&30♀, fig.A, B, E♂genitalia）

1♂, 27.VI.1960, 1♂, 5.VI.1961, 1♂, 12.VI.1961, 1♀, 8.VI.1961, 前翅長すべて18mm.

以上3♂♂1♀が私の手許にある光陵（中部朝鮮）産標本であるが，ウスリー産のものについては，New Entomologist, 7(4)：6にのべておいた通りで，前翅長に変りはない．♂の翅表緑色は濃青色であり，ウスリー産の緑色光輝が少しく霞んでみえるのは標本が古いためと思われる．いま改めて近似種 *latifasciatus* (fig. C, D, F) ヒロオビミドリシジミ♂とGenitaliaの比較をしてみると次の如くである．Brachiaは *ussuriensis* が根本に近く太くなり，先端で急に細くなるのに，*latifasciatus* では太さに変りない．Brachiaの上方 tegmen の縁は鋸歯状になつているが，*ussuriensis* では認められない．Valvaは側面からみると，*latifasciatus* の方は一方がえぐられたように入りこんでおり，内面は *latifasciatus* では中部にも鋸歯状突起があるが，*ussuriensis* にはなく，円月形の板状遊離突起を具えている．また前方部は内方にまがってその先端は鋸歯状となる．以上の相違点と♂翅表の緑色が *latifsciatus* の如き黄色味を全く帯びない点で両者の別種であることは確認された．恐らくウスリーミドリシジミは朝鮮におけるヒロオビミドリシジミの代置種であろう．

Quercusia fujisana latimarginata **subsp. nov.** フジミドリシジミ（新亜種）（fig.31, 33, 35, 37）

Zephyrus, 6：130,（梅野・白水）1935,

基本型と比較して次の点で区別する．♂表面前後翅とも外縁の黒色帯は著しく巾広い．裏面前翅中室の外側を通る暗色横帯より基部に至るまでの間暗色を呈し，とくに前縁は濃色，外縁近くもまた基本型より強く暗色を呈する．後翅も中室の外側にある暗褐色帯は太く且濃色で，それより内側は強く暗色を呈する．外縁及び亜外縁の弧状暗褐色紋列は何れも濃色で太い．♀裏面大体♂と同様で前後翅とも中室の外側を通る暗褐色帯は♂より一層太く鮮明である．要するに基本型に比しはるかに暗色度が強いのである．

Holotype: 1♂, 宝満山, 23, VI.1960; Allotype: 1♀, 彦山（中岳）4.VII.1960; Paratypes: 1♂, 彦山（北岳）3.VII.1959, 1♂宝満山, 23.VI.1960,（以上筆者所蔵）1♀, 彦山（中岳）13.VII.1960.（山内光氏所蔵）

北九州の山地（彦山，豊満山，犬ケ岳，三郡山等）に限って分布するものである．

Glaucopsyche teleius daisensis ab. *yoshisakai* **nov.** ゴマシジミ（新異常型）（fig.39, 40, 42, 43）

Holotype：1♂, Allotype：1♀, 共に 9.VIII. 1961.

伯耆大山にて吉阪道雄氏採集（♂は筆者，♀は吉阪氏蔵）*Daisensis* 正常型と異る点は♂表面前後翅とも中央の黒点紋列すべて消失，♀は前翅第2，3，4，5，6各室，後翅は第3，4，5，各室に黒点紋のこり，後翅はとくに退化して小形となっているところにある．

Cupido argiades seitzi ab. *tukagutii* **nov.** ツバメシジミ（新異常型）(fig. 47)

Holotype：1♀, 2. VI. 1940, 神戸市雄田山麓，塚口茂彦氏採集（筆者所蔵）

撮影の際の不手際で片翅破損したが元は完全標本で両翅無尾のものである．

Lycaeides argus micrargus ab. *chiyodaensis* **nov.** ヒメシジミ（新異常型）(fig. 46)

Holotype：1♂, 28. VIII. 1958. 山形県千代田湖（吉阪道雄氏蔵）

裏面前後翅とも外縁の黒点紋列及びその内側の橙色斑紋列拡大し，その内側の弦月形小黒点紋列は全く消えたものである．

Zizeeria maha argia ab. *kanonis* Matsumura ヤマトシジミ（異常型）(fig. 45)

1♀,; IX. 1954, 彦根市内 前翅長 13mm. 筆者所蔵

kanonis に近いが，*kanonis* では外縁に並ぶ紋列のうち， 内側のものが膨大し 細長い紋の列となっているのに対し，本個体はそれ程細長くならない．また外縁に並ぶ紋列のうち一番外側のものは *kanonis* より一層退化して消失に近い．本標本を提供された布藤美之氏に深謝する．

Resume

Papilio maackii raddei ab. *paki* **nov.**

Hindwing, upperside, central bluish green band as well as marginal crescent bluish green markings, extremely extend, so fuse together, also marginal reddish markings become very large. Underside, central yellow band and marginal red-purplish crescent markings very spread, so almost fuse each other. Hab. Kwangnung (Middle Korea)

Apatura ilia substituta Butler.

Hitherto, it was believed that *substituta* of Japan is equal to one of Korea, but in consequence of my scrutinizing, it became clear that both are to be distincted exactly. Both types (typical, and nigrescent) of Korea are larger or broader than those of Japan in orange or white markings of interspaces 1&2 of forewing, and in central orange or white band of hindwing, upperside. So I think that the name *substituta* should not be used exactly in the Japanese *Apatura*. Rather the name *mikuni* is to be adopted as the Japanese race.

Apatura ilia substituta f. *kwangnunga* **nov.**

♂♀ Upperside, hindwing, darkish dand containing the pupillated marking in interspace 2 nearly disappear. The very light form, somewhat resembles to *here*.
Hab. Kwangnung (Middle Korea).

Neptis raddei Bremer
Neptis tshetverikovi Kurenzov
Neptis speyeri Staudinger

Above-mentioned three species are at first recorded from the Middle Korea (Kwangnung). Especially here, the female of *raddei* is described.

Neptis rivularis peninsularum Murayama

Peninsularum (Trans. Lep. soc. Jap., 11(2), 1960) is valid name, because *N. coenobita* (=*rivularis*) *koreana* Soek (1934) is preoccupied by *N. pryeri coreana* Esaki et Nakahara, 1929.

Favonius yuasai coreensis **subsp. nov.**

In this time, this species is at first recorded from Korea. It differs from the Japanese specimens in the following points; Somewhat smaller, whitish scales in outer margin of interspaces 2, 4, 5, 6 of hindwing, underside, very conspicuous. Gronnd colour of underside more or less darkish. Hab. Kwangnung (Middle Korea)

Favonius ussuriensis Murayama

The specimens from Ussuri were illustrated in "New Entomologist" 7 (4) : 6. This species is very similar to *F. latifasciatus*, but the metallic green on upperside of male deep bluish (in *latifasciatus* golden green). Male genitalia, brachia becomes bold near the base, inside of valva, the former tip curved inside becomes saw-shaped chitinous matter, in the middle part, bears the crescent shaped chitinous matter. In this time 3♂♂ 1♀ are at first recorded from the Middle

Korea (Kwangnung).

Quercusia fujisana latimargiana **subsp. nov.**

Male, upperside, marginal black band of both wings distinctly broader than the typical form. Underside, in both wings, area between the base and darkish brown band outside of discocellulars is very dark. Apex of forewing darker. Female, underside same as male, darkish brown band outside of discocellulars broader than male.

Hab. Northern Kyushu (Mt. Hikosan. Mt. Homanzan, Mt. Inugadake, Mt. Sangunzan.) Japan.

Glaucopsyche teleius daisensis ab. *yoshisakai* **nov.**

Male, upperside, central black spot lines of both wings perfectly extinct, in the female remarkably educe. Hab; Mt. Daisen, Tottori pref., Japan.

Cupido argiades seitzi ab. *tukagutii* **nov.**

Female, this form lacks perfectly tails in hindwing. Hab; Kobe, Japan.

Lycaeides argus micrargus ab. *chiyodaensis* **nov.**

Male, underside, in both wings, outer submarginal black spot line and the red marking line spread conspicuously, inner submarginal black spot line perfectly evanishes.

Hab; Yamagata, Japan.

Zizeeria maha argia ab. *kanonis* MATSUMURA

This female is an aberrant form very similar to ab. *kanonis* MATSUMURA. Hab. Hikone, Japan.

ハマヤマトシジミ，沖縄島で再発見

長嶺邦雄[1)]

Second Record of *Zizeeria knysna karsandra* MOORE from Okinawa Island

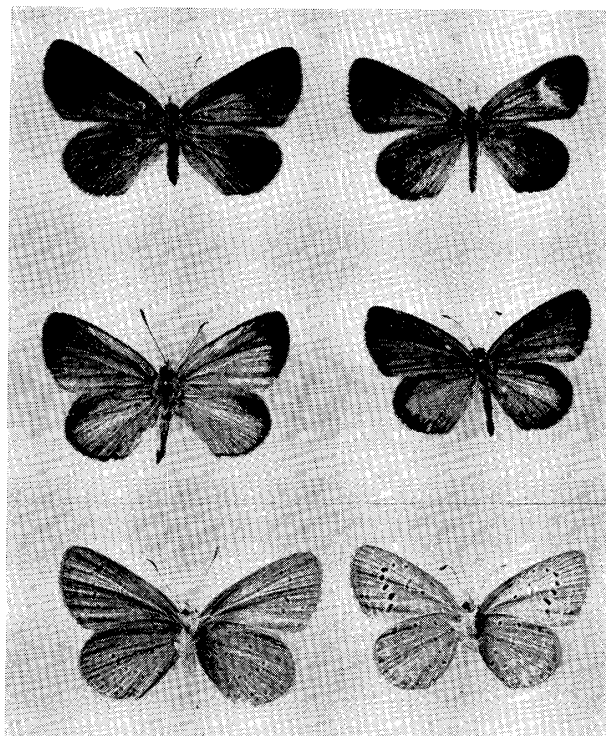
BY KUNIO NAGAMINE

ハマヤマトシジミ（タイワンシジミ）*Zizeeria knysna karsandra* MOORE は既に屋代（1932）[2)]により沖縄島から記録されていたがその後記録がなく分布しないものと思っていた．しかし最近尾本（1959, 60）[3)]により石垣島，宮古島に多産する事が明かにされ，筆者も1961年9月に石垣島登野城，伊原間，宮古島平良市でそれを確認する事が出来た．それ以来，沖縄島にも発見の可能性があるものと思い海岸近辺を注意してきた．それが下記の様に沖縄島南部の糸満で成虫3頭とハリビユ *Amaranthus spinosus* から1頭の幼虫を得たので報告する．

採集月日　1961年11月19日　　採集地　沖縄糸満町

採集者及頭数　長嶺邦雄（1♂1♀）長嶺将昭（1♂）

屋代氏の本種についての報文には「ヤマトシジミと一緒に草原に行くと採集される」（原文）とある．同氏の標本を見ることが出来ないので断言は出来ないが，同氏の琉球に関する報文にタイワンコシジミ *Zizina otis riukiuensis* (MATSUMURA) の記録がない事，タイワンコシジミは普通種である事，ハマヤマトシジミは海岸地に産する事，両種は大きさ，色彩などがほとんど似ている事などからタイワンコシジミの同定の誤と思われる点があり，もし上記の様であれば今回の記録は初のものとなる．

最後に文献の貸与，報文面の御注意下さった琉球大学高良鉄夫博士，日頃いろいろ御教示下さり，今回は報文の発表をすすめて下さった九州大学白水隆博士に厚く感謝申し上げます．

右列はハマヤマトシジミ，左列はタイワンコシジミ　上から♀，♂，♂裏面

1）沖縄那覇市松尾75　　2）Zephyrus, 4(2—3)：124, 1932　　3）蝶と蛾10(4)：61, 1959; 11(3)：43, 1960